

定期作況報告

平成20年7月
(7月20日現在)

北海道立北見農業試験場

1. 気象経過

6月下旬：最高気温、最低気温、平均気温とも平年より極めて低かった。降水量は平年より少なかった（平年比15%）。日照時間は平年並であった（平年比93%）。

7月上旬：最高気温、最低気温、平均気温とも平年より極めて高かった。降水量は平年より少なかった（平年比21%）。日照時間は平年より多かった（平年比151%）。

7月中旬：最高気温は平年より極めて低く、最低気温は平年よりやや高く、平均気温は平年よりやや低かった。降水量は平年よりやや多かった（平年比140%）。日照時間は平年より少なかった（平年比7%）。

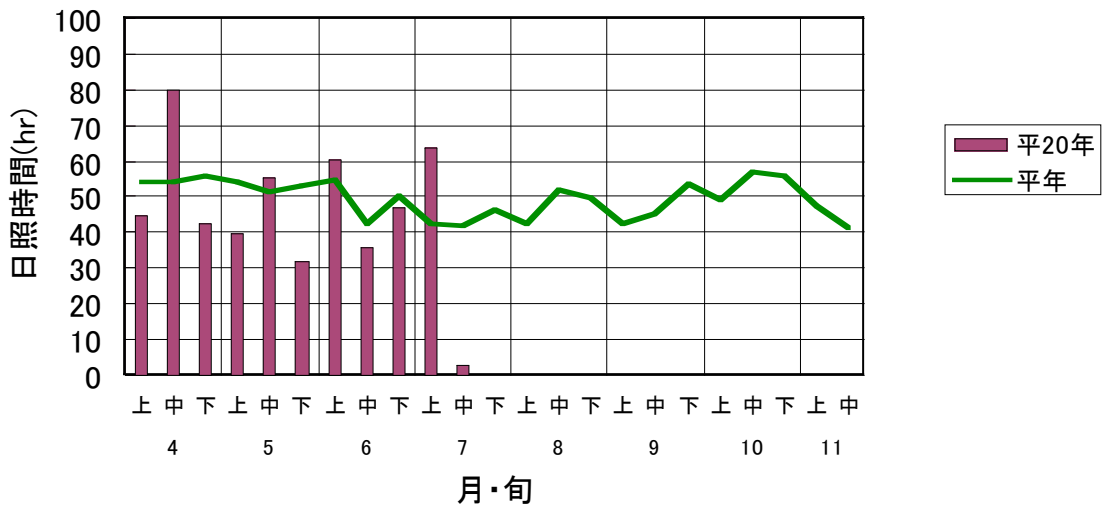
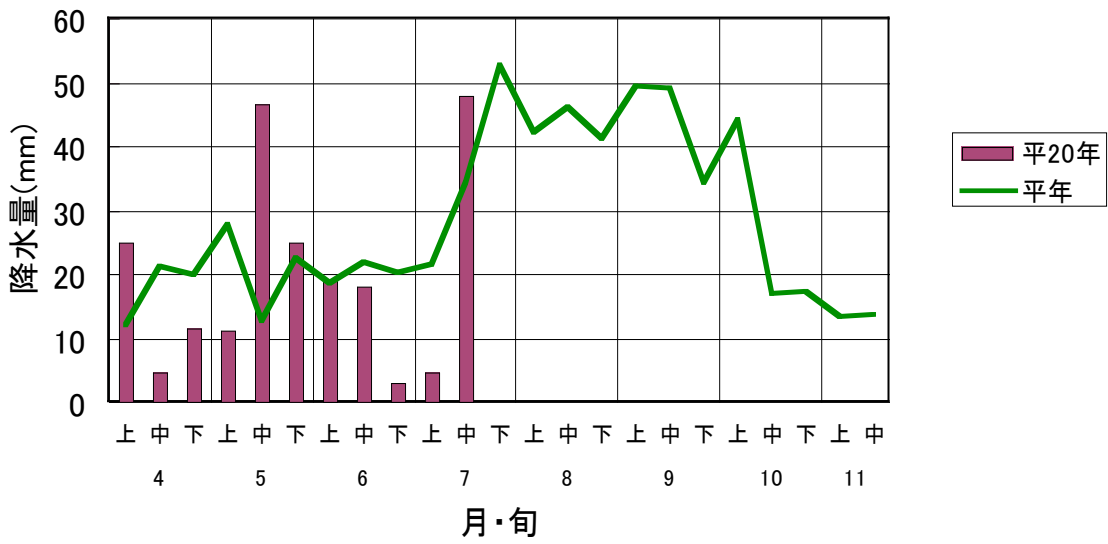
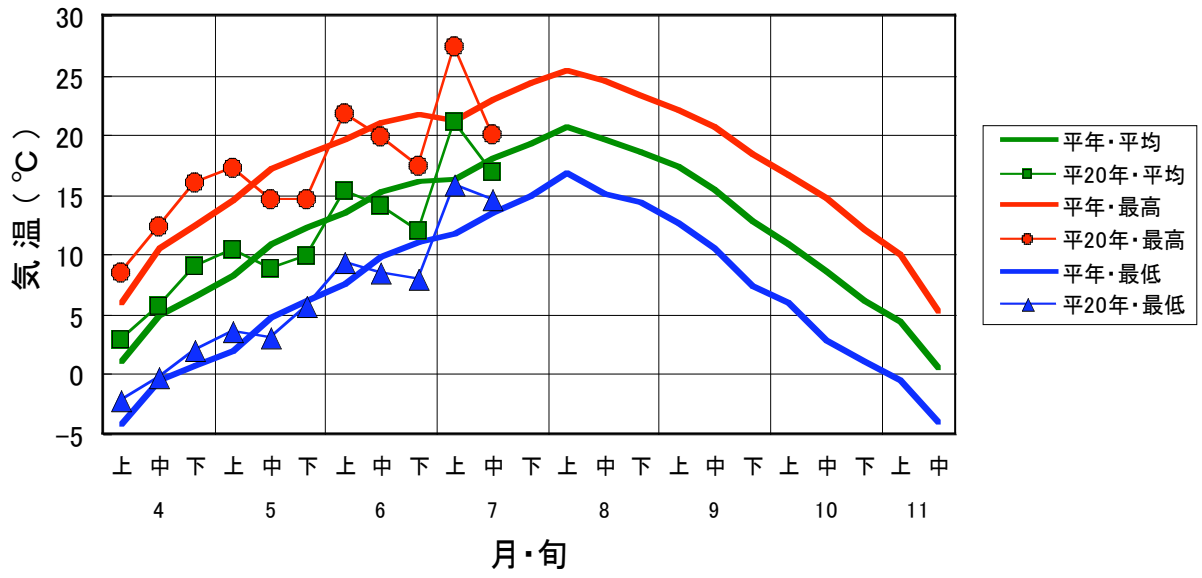
以上のことから、この1か月間（6月下旬～7月中旬）は平年と比較して、気温は平年並、降水量は平年よりやや少なく、日照時間は平年並であった。

注) 降水量、日照時間についての平年値との比較表現は、各旬における過去10年間の出現値の幅に基づいているため、「平年並」に含まれる値の範囲は旬毎に異なる。

項目	平均気温 (°C)			最高気温 (°C)			最低気温 (°C)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
6月下旬	12.1	16.2	△4.1	17.4	21.8	△4.4	8.0	11.1	△3.1
7月上旬	21.1	16.3	4.8	27.4	21.2	6.2	15.8	11.8	4.0
7月中旬	16.9	18.0	△1.1	20.1	23.0	△2.9	14.6	13.6	1.0
平均	16.7	16.8	△0.1	21.6	22.0	△0.4	12.8	12.2	0.6

項目	降水量 (mm)			日照時間 (hr)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
6月下旬	3.0	20.4	△17.4	47.0	50.4	△3.4
7月上旬	4.5	21.6	△17.1	63.9	42.3	21.6
7月中旬	48.0	34.4	13.6	3.0	41.7	△38.7
合計	55.5	76.4	△20.9	113.9	134.4	△20.5

注) 1) 観測値は、置戸町境野のアメダスデータである。
2) 平年値は前10か年間の平均である。



2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走支庁管内全体を代表するものではありません。

1) 秋まき小麦 作 況：やや不良

事 由：6月下旬は低温、7月上旬は高温で推移したが、7月中旬はやや低温で寡照多雨となり、登熟はやや緩慢となっている。稈長は平年よりやや長く、穂長は平年並で、穂数は平年よりやや少ない。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	ホクシン		
	本年	平年	比較
稈長(cm) (成熟期)	88	83	5
穂長(cm) (成熟期)	8.4	8.3	0.1
穂数(本/m ²) (成熟期)	649	713	△ 64

注) 平年値は前7か年中、平成14年(最凶)、15年(最豊)を除く5か年の平均値。

2) 春まき小麦 作 況：やや良

事 由：6月中・下旬が低温で推移したため、出穂期は平年より5日程度遅い6月27日となった。7月上旬は高温で日照時間も多かったことから生育は旺盛になった。稈長、穂長は平年より長く、穂数は平年より多い。7月5日の局地的な豪雨により一部で倒伏が発生した。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	ハルユタカ			春よ恋		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
出穂期 (月.日)	6.27	6.21	6	6.27	6.23	4
稈長(cm) (7月20日)	88	82	6	95	85	10
穂長(cm) (7月20日)	8.9	8.0	0.9	8.9	8.2	0.7
穂数(本/m ²) (7月20日)	571	502	69	580	490	90

注) 平年値は前7か年中、「ハルユタカ」は平成15年(最凶)、18年(最豊)、「春よ恋」は平成14年(最凶)、18年(最豊)を除く5か年平均。

3) とうもろこし (サイレージ用) 作 況 : 不良

事 由 : 6月中下旬の低温により、初期生育が遅れた。7月上旬は高温に推移したが、中旬は低温寡照に推移した。現在、草丈は平年より29cm低く、葉数も平年より約1枚少なく、生育の遅れを取り戻せていない。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目	チベリウス		
	本年	平年	比較
草丈 (cm) (7月20日)	123.7	153.1	△ 29.4
葉数 (枚) (7月20日)	11.3	12.2	△ 0.9

注) 平年値は前4か年の平均値 (供試品種を変更したため)。

4) 大 豆 作 況 : 平年並

事 由 : 6月下旬の低温で初期生育は停滞気味であった。7月上旬は高温に推移したため、主茎長、本葉数ならびに分枝数は概ね平年並となった。なお、開花始の平年値は7月20日であるが、7月中旬の平均気温がやや低かったため、本年はまだ達していない。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	トヨコマチ			ユキホマレ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	—	7.20	—	—	7.20	—
主茎長 (cm) (7月20日)	44.4	42.5	1.9	42.9	41.8	1.1
本葉数 (枚) (7月20日)	7.0	6.4	0.6	6.5	6.3	0.2
分枝数 (本/株) (7月20日)	3.0	3.0	0.0	2.2	2.6	△ 0.4

注) 平年値は前7か年中、平成13年(最凶)、17年(最豊)を除く5か年の平均。

5) 小豆

作況：平年並

事由：6月下旬の低温で初期生育は停滞気味であった。7月上旬は高温に推移したため、主茎長はやや短い、本葉数および分枝数は概ね平年並である。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	エリモショウズ			サホロショウズ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
主茎長(cm) (7月20日)	12.8	15.5	△ 2.7	12.9	14.6	△ 1.7
本葉数(枚) (7月20日)	6.0	5.7	0.3	5.5	5.5	0.0
分枝数(本/株) (7月20日)	1.3	1.4	△ 0.1	1.5	1.6	△ 0.1

注) 平年値は前7か年中、平成15年(最凶)、18年(最豊)を除く5か年の平均。

6) 菜豆

作況：平年並

事由：6月下旬の低温で初期生育は停滞気味であったが、7月上旬は高温に推移したため、開花始は4日遅れたものの、生育量は回復した。草丈は平年よりやや高く徒長気味であるが、本葉数、分枝数は概ね平年並である。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	大正金時			福勝		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	7.10	7.6	4	7.12	7.8	4
草丈(cm) (7月20日)	38.2	36.3	1.9	41.8	36.6	5.2
本葉数(枚) (7月20日)	3.4	3.4	0.0	3.5	3.7	△ 0.2
分枝数(本/株) (7月20日)	4.0	4.1	△ 0.1	4.1	3.9	0.2

注) 平年値は前7か年中、平成19年(最凶)、13年(最豊)を除く5か年の平均。

7) ばれいしょ 作 況：平年並

事 由：開花始は「男爵薯」が平年より3日遅い7月3日、「コナフブキ」が5日遅い7月5日であった。7月5日の大雨および7月中旬の降水による十分な土壌水分、7月中旬の適度な温度条件と著しい寡照により地上部が急激に伸長し、茎長は「男爵薯」で平年より11cm、「コナフブキ」で5cm上回った。地上部は軟弱で徒長している。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である

調査項目	男爵薯			コナフブキ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	7. 3	6.30	3	7.5	6.30	5
茎長(cm) (7月20日)	47	36	11	65	60	5
茎数(本/株) (7月20日)	4.1	3.3	0.8	3.4	2.8	0.6

注) 平年値は前7か年中、「男爵薯」は平成15年(最凶)、17年(最豊)、「コナフブキ」は平成15年(最凶)、18年(最豊)を除く5か年の平均。

8) てんさい 作 況：平年並

事 由：7月上旬の高温と局地的な降雨により、草丈は急速に伸長したが、7月中旬の日照不足で茎葉は軟弱徒長気味である。地下部の肥大は、移植栽培においては平年並で、直播栽培では平年をやや下回っている。

以上のことから目下の作況は「平年並」である。

調査項目	移植						直播		
	モノホマレ			アーベント			モノホマレ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
草丈(cm) (7月20日)	63.3	56.1	7.2	60.5	53.0	7.5	55.4	50.1	5.3
生葉数(枚) (7月20日)	21.0	21.7	△ 0.7	21.1	19.5	1.6	18.9	19.4	△ 0.5
茎葉重 (g/個体) (7月20日)	848	689	159	879	612	267	659	474	185
根重 (g/個体) (7月20日)	270	267	3	294	273	21	120	132	△ 12
根周(cm) (7月20日)	21.6	21.5	0.1	23.6	22.4	1.2	17.2	17.3	△ 0.1

注) 平年値は前7か年中、移植「モノホマレ」は平成15年(最凶)及び17年(最豊)、移植「アーベント」は平成14年(最凶)及び16年(最豊)、直播「モノホマレ」は平成14年(最凶)及び16年(最豊)をそれぞれ除く5か年の平均。

9) 牧草(チモシー)

作況: やや不良

事由: 1番草は平年並の6月19日に収穫を行った。1番草の草丈は平年並で、乾物率は平年を上回った。5月中下旬ならびに6月中旬の気温が平年と比べ低く推移したことにより、乾物収量は平年比90%と平年よりも少なかった。7月中旬の降水量が平年と比べやや多かったことにより、2番草再生時の草丈は平年よりもやや高かった。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目		ノサップ		
		本年	平年	比較
被度 (%)	2番草再生時	100	99	1
草丈 (cm)	1番草	103	100	3
	2番草再生時	42	36	6
生草収量 (kg/10a)	1番草	2326	2918	△ 592
乾物率 (%)	1番草	26.0	23.7	2.3
乾物収量 (kg/10a)	1番草	605	671	△ 65

注) 平年値は前6か年のうち平成19年(最凶年)を除く5か年の平均値(耕種概要と調査項目を大幅に変更したため)。

10) たまねぎ

作 況：平年並

事 由：6月下旬から7月上旬の日照時間は平年並であったものの降水量が少なく、生育はやや停滞し、「改良オホーツク1号」の肥大期は平年より2日程度遅かった。7月5日の強い降雨により一部の試験区が冠水するとともに、雹害により葉にも損傷を受けた。7月中旬以降は最低気温が高く、降雨により冠水した場所では株の腐敗が著しく進行しているが、現時点では「改良オホーツク1号」、「スーパー北もみじ」とともに草丈、生葉数および葉鞘径は平年並である。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	改良オホーツク1号			スーパー北もみじ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
球肥大期 (月.日)	7.9	7.7	2	-	7.21	-
草丈(cm) (7月20日)	74.3	73.8	0.5	88.8	79.3	9.5
生葉数(枚) (7月20日)	10.0	9.3	0.7	10.7	10.5	0.2
葉鞘径(mm) (7月20日)	19.1	19.2	△ 0.1	20.5	20.9	△ 0.4
葉身生重(g) (7月20日)	108.5	107.0	1.5	153.5	126.3	27.2
球生重(g) (7月20日)	69.4	98.6	△29.2	42.7	50.7	△ 8.0
葉身乾物率(%) (7月20日)	6.8	8.5	△ 1.7	7.0	8.2	△ 1.2

注1) 平成15年に圃場を変更したため、平年値は平成15年から平成19年までの5カ年の平均。